

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づき「自主・自律」の心を育み、「己を鍛え、己を磨き、ともに切磋琢磨する」「他を思いやり、己を大切にできる」人材を育成する。

- 1 将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活を送ることができる学校をめざす。
- 2 普通科専門コース制を有する学校として、各コースの特色を活かすとともに、自己の興味・関心を自己実現へとつなげていく。
- 3 社会人として必要なコミュニケーション力・プレゼンテーション力や語学力を身につけ、これからの社会に通用する人材を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 基礎学力の定着、発展的学力の育成をめざし、学力の向上を図る。

- ア 授業規律の徹底を図り、授業の準備に重点を置き、主体的に授業に参加させる。
- イ 双方向性に富む授業（主体的・対話的で深い学び）を行い、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させる。一斉講義形式の授業から脱却する。
- ウ 学力の定着を図るために宿題・課題を適切なタイミングで課し、学習の振り返りおよび反復を行う。また、学力生活実態調査等を活用しながら学力の推移を把握し、基礎学力の定着を図る。
- エ 家庭（学校外・授業外）学習の大切さについても粘り強く指導を行い、課題・宿題の一層の取組みを促す。
- オ 授業外の校内での学習活動の充実を図り、進路自習室、進学特別ルーム（会議室）、アドバンス学習室（視聴覚室）の積極的な活用を行う。
- カ 効率的に「朝学」に取組み、漢字・英単語の学習、社説の読解等、基礎学力の向上を図る。

(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 様々な教科・科目で単元・題材等内容のまとまりや区切りの中で、学習を振り返る場面やグループワーク・班別討論を多く取り入れること、また、教員の発問による授業展開の組み立てを研究しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実践につなげていく。
- イ 観点別学習状況の評価を進め、計画・実践（指導）・評価・改善による、指導と評価の一体化をすすめる。
- ウ ICT機器を効果的に活用し、視覚に訴える授業の充実や体験的学習を取り入れた指導方法の工夫に努める。

(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育成し、社会で生き抜く力と自己表現力を身につける。

- ア 各教科の授業に加えて学年の取組みや学校行事等を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。
- イ 国際共通語としての中心的な役割を果たしている英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成する。  
※学校教育自己診断「…『自分で考える力』が身についた」の肯定率を令和5年度に80%にする。（H30年度80%、令和元年度65%、令和2年度67%）  
「…予習や復習が必要である。」の肯定率を令和5年度に75%にする。（H30年度55%、令和元年度55%、令和2年度60%）

(4) 生徒の進路実現の支援

- ア 校内における進学講習や補習および土曜講習の拡充、夏季勉強合宿の継続及びone\_day勉強合宿の拡充をめざす。
- イ 進路希望に合わせた進路指導および情報提供と進学講習等を計画的に実施し、早い段階での進路意識の醸成に努める。
- ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と到達度を的確に理解する指導体制を作る。  
※4年制大学進学率60%を維持する。  
※学校教育自己診断における「…進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率を令和5年度80%にする。（H30年度75%、令和元年度65%、令和2年度69%）  
同様に、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定率を令和5年に85%にする。（H30年度82%、令和元年度79%、令和2年度79%）

2 自らの将来を見据え、将来の寄って立つぶれない軸を形成する取組みの推進。

(1) キャリアデザイン（以下CDと記載）の推進

- ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる「キャリアデザイン」を「ロングホームルーム」や「総合的な探求の時間」を活用して推進する。
- イ 入学から卒業までの段階を踏んだCDプログラムに基づき、進路先の更に先にある職業意識を育む。

(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成

- ア 様々な分野・年齢の講師による講演等計画的な人権教育を実施し、豊かな心を育む教育を推進する。また、いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するためにいじめに関する校内組織を中心に組織的に取り組む。
- イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り達成感を覚える取組みをする。
- ウ 集団活動を通して、他者と望ましい人間関係・協働関係を構築できる人間性を育む。

3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成

(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。

- ア 組織的な統一した遅刻指導を行い、遅刻に対する生徒の意識の改善を図る。
- イ 毎日の登下校時及び毎授業時間の開始・終了時の挨拶の励行。
- ウ 「挨拶」「服装」「頭髪」「規律」「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、あらゆる場面において全ての教員が指導する。  
※遅刻平均総数を令和5年までには、1500回を目標とする。（H30年度2439回、令和元年度3565回、令和2年度2851回）

(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。

- ア 部活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。
- イ 文化祭や2月祭で文科系クラブ等の生徒の学習の成果の発表の機会を設ける。
- ウ 部活動を中心とした清掃活動を継続し、校内の特定箇所の集中清掃や校外の地域清掃を行う。
- エ 生徒会活動や学校行事の活性化を継続して行い、生徒が主体的に運営する機会を増やす。
- オ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、語学研修や海外の高校との交流（オンラインも含めた）を促進する。  
※学校教育自己診断の「学校行事における肯定率」を令和5年度には80%台に乗せる。（H30年度56%、令和元年度65%、令和2年度70%）

4 学校全体の課題を共有して、解決に向けて取り組む

(1) 分掌部会等の開催

- ア 業務の平準化をめざし、分掌内業務の見える化を行う。業務の継承～指導改善へとつながるように、業務マニュアルを含めて総括を行い、次年度への改善点の洗い出しを行う。
- イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。

<p>(2) 教員の働き方改革への取組みを推進 ア 毎月の安全衛生委員会で、教員の時間外在校時間を報告し、新たな取組みを検討していく。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大を防ぐ取組みの推進 ア マスクの着用や換気の励行等の対策を啓発する。 イ 新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別が生じないような取組みを推進する。</p> <p>(4) オンライン授業に向けての組織の構築と取組みの推進 ア GIGA スクール構想に向けての校内組織の構築とオンライン授業に対する課題を整理する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
.	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 学力の向上(基礎学力の定着、発展的学力の育成) ア 授業規律の徹底、主体的な授業参加の実践 イ 双方向性に富む授業の実施。一斉講義形式の授業から脱却する。 ウ 学力の定着 宿題・課題</p> <p>エ 学校外・授業外学習の取組み。</p> <p>オ 授業外校内学習の充実。</p> <p>カ 「朝学」で基礎学力の向上を図る。</p> <p>(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。 ア 「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 イ 計画・実践・評価・改善という一連の活動により授業改善を行う。 ウ ICT機器を効果的に活用し、指導方法の工夫に努める。</p> <p>(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力、社会で生き抜く力と自己表現力の育成。 ア 教科授業に加えて学年の取組みや行事、コース授業を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。 イ 英語の4技能 (4) 生徒の進路実現の支援 ア 外部講師による土曜講習、夏季勉強合宿の実施。 イ 進路希望に合わせた情報提供、進学講習等早い段階での進学意識の醸成。 ウ 模試の計画的・積極的受験。</p>	<p>(1) ア 授業規律の徹底を図り、授業の準備に重点を置き、主体的に授業に参加させる。 イ 双方向性に富む授業(主体的・対話的で深い学び)を行い、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させる。一斉講義形式の授業から脱却する。 ウ 学力の定着を図るために宿題・課題を適切なタイミングで課し、学習の振り返りおよび反復を行う。また、学力生活実態調査等を活用しながら学力の推移を把握し、基礎学力の定着を図る。 エ 家庭学習の大切さについても粘り強く指導を行い、課題・宿題の一層の取組みを促す。 オ 授業外校内学習の充実を図り、進路自習室、進学特別ルーム(会議室)、アドバンス学習室(視聴覚室)の積極的な活用を行う。 カ 漢字・英単語の学習、社説の読解等、「朝学」に効率的に取組み、基礎学力の向上を図る。</p> <p>(2) ア 双方向性に富む授業(主体的・対話的で深い学び)を行い、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させる。一斉講義形式の授業から脱却する。 イ 計画・実践・評価・改善という一連の活動を実践し、現状をより良いものにして行く。 ウ 実施できる教科から、ICT機器を利用する授業を増やす。</p> <p>(3) ア 授業に加えて教科、学年、総合的な探求の時間等、学年の取組みや行事、コース授業を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。 イ 授業において「聞く・話す・読む・書く」をバランスよく育成する。</p> <p>(4) 校内における進学講習や補習および土曜講習の拡充、夏季勉強合宿の継続及び one_day 勉強合宿の拡充をめざす。また、英語については学習効果を一層高めるための習熟度別によるクラス編成を実施する。 イ 計画的な進路 LHR 等を活用し、取組みとして、大学出願前に志望校の「過去問」への取組みを進める。また1・2年の希望者の「校内勉強合宿」を継続して実施していく。 ウ 実施時期を考え、年間計画を立て、適切な模試の受験および活用を促す。</p>	<p>(1) ア 授業アンケート結果における「授業に対するあなたの取組」令和3年度 95%を維持する。 生徒向け学校教育自己診断の「授業で『自分で考える力』が身についた」の肯定率 72%[67%] イ 生徒向け学校教育自己診断の「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率 85%[85%]。 ウ 同自己診断の「本校の授業では、宿題や課題が良く出される。」の肯定率 70%[67%]。 エ 同自己診断の家庭学習(1時間以上)の時間を確保している割合 40%[31%]。 オ 4年制大学進学率 60%を目標とする。 カ 生徒向け学校教育自己診断の「本校では、授業以外にも、補習や講習が充実している。」の肯定率令和3年度 65%[60%]。 (2) ア 生徒向け学校教育自己診断の「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率 85%[85%]に、また「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある。」の肯定率を 75%[72%]。 イ 授業アンケートの振り返りシートの全員提出を維持する。 ウ 学校教育自己診断の「本校の授業(実習・演習含む)では、コンピュータやプロジェクターを活用している。」の肯定率 80%[78%]。 (3) ア、イ 学校教育自己診断の「発表する力」令和3年度 65%[61%]、「相手とコミュニケーションする力」の肯定率 70%[67%]、「自分で考える力」肯定率 70%[67%]。 (4) ア 進学実績の4年制大学進学率 60%維持。 イ 学校教育自己診断の「本校では進路についての情報をよく知らせてくれる。」の肯定率 75%[69%]。 ウ 教員向け模試の分析会を年間2回[1回]実施し、模試の有効活用を図る。</p>	

<p>2 将来の寄って立つ軸を形成する取組みの推進</p>	<p>(1) キャリアデザインの推進 ア 「キャリアデザイン」を推進する。</p> <p>イ 職業意識の醸成</p> <p>(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成 ア 計画的な人権教育の継続し、豊かな人権意識を養う。</p> <p>イ 学校行事・学年行事で達成感を覚える取組みをする。</p>	<p>(1) キャリアデザイン（以下CDと記載）の推進 ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる「キャリアデザイン」を「ロングホームルーム」や「総合的な探求の時間」（必ず調査・研究・発表のステップを踏む）等を活用して推進する。</p> <p>イ 入学から卒業までの段階を踏んだCDプログラムに基づき、進路先の更にある職業意識を育む。</p> <p>(2) 人権意識の向上と自己肯定感の醸成 ア 3年間を見通した計画的な人権教育を継続し、様々な分野・年齢の講師から講演を聞き、豊かな人権意識を養う。</p> <p>イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り達成感を覚える取組みをする。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の令和3年度の肯定感80%を維持する。</p> <p>イ 同上</p> <p>(2) ア 3年間の計画的な人権教育計画作成とテーマ別人権総合学習の継続。</p> <p>イ 体育祭、文化祭、及び2回の学校説明会の運営に生徒が主体的に関わる体制を維持する。</p>	
<p>3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の育成、通学マナーの向上とあいさつ運動。</p> <p>ア 組織的な統一した遅刻指導。</p> <p>イ 挨拶の励行。</p> <p>ウ 全教員の指導による生徒の規範意識の高揚。</p> <p>(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。 ア 部活動充実 イ 学習成果の発表</p> <p>ウ 部活動を中心とした清掃活動</p> <p>エ 生徒会活動や学校行事の活性化</p> <p>オ 語学研修・海外の高校との交流の促進。</p>	<p>(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。</p> <p>ア 組織的な統一した遅刻指導を徹底し、「遅刻はしない」という意識の醸成をする。</p> <p>イ 毎日の登下校時及び毎時間の開始・終了時の挨拶の励行。</p> <p>ウ 「挨拶」・「服装」・「頭髪」・「規律」・「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、あらゆる場面において全ての教員が指導する。</p> <p>(2) ア 部活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。 イ 文化祭や2月祭で文科系クラブ・生徒の学習の成果やの発表の機会を設ける。</p> <p>ウ 部活動を中心とした清掃活動を継続し、校内の特定箇所の集中清掃や校外の地域清掃を行う。</p> <p>エ 生徒会活動や学校行事の活性化を継続して行い、生徒が主体的に運営する機会を増やす。</p> <p>オ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、語学研修やオンラインも含む海外の高校との交流を促進する。</p>	<p>(1) ア 遅刻総数前年比減に向け取り組む。指標は前年度比20%減。[2851]</p> <p>ウ 学校教育自己診断の「学校生活について先生の指導には納得できる。」の肯定率60%[54%]。</p> <p>(2) ア、イ 学校教育自己診断の「本校は、体育祭・文化祭などの学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」学校行事における肯定率80%[70%]。</p> <p>ウ 実施回数全クラブで35回[30回]。</p> <p>エ 学校教育自己診断の「本校は、体育祭・文化祭などの学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」学校行事における肯定率75%[70%]。</p> <p>オ 語学研修や海外の高校との交流を継続する。</p>	

<p>4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織づくり</p>	<p>(1)「分掌部会」等の開催 ア 業務の平準化分掌内業務の「見える化」を行う。業務マニュアルを含む「総括文書」等を残す。 イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。</p> <p>(2) 働き方改革の推進</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大を防ぐ取組みの推進 ア マスクの着用や換気等の感染症対策の徹底 イ 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害を生起させない</p> <p>(4) オンライン授業に向けての組織の構築と取組みの推進 ア 校内組織の構築とオンライン授業に対する課題の整理</p>	<p>(1)「分掌部会」等の開催 ア 業務の平準化をめざし、分掌内業務の「見える化」を行う。業務の継承ができるように、業務マニュアルを含む「総括文書」等を残す。 イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。</p> <p>(2) ア 業務削減に繋がることを実践する。</p> <p>(3) ア マスクの着用や換気の励行等の対策を啓発する。 イ 新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別が生じないような取組みを推進する。</p> <p>(4) ア 委員会組織の構築とオンライン授業に向けた課題の整理を進めていく。</p>	<p>(1) ア 各分掌で1年の締めくくりとして「総括文書」を職員会議で提示し、次年度の業務を引き継ぐ体制を構築する。 イ 学年会議や分掌会議を毎週開催することにより、諸課題を整理し、月2回の運営委員会で解決策を検討する。 ア 1か月あたりの平均時間外在校時間を昨年度比5%減少させる[30H]。 安全衛生委員会を毎月開催し、職場環境の改善につなげる。 ア 「ほけんだより」等の文書を毎月発行し、感染症対策の徹底をはかる。 イ 人権教育推進委員会等を毎週開催し、校内における諸課題を整理するとともに、偏見や差別を生起させないような取組みを実践する。 ア 1人1台の端末の導入に向けて、ICTを効果的に活用する研修会等を年に3回実施する[2回]。</p>
------------------------------------	--	---	--